

2026 年度 成城大学大学院 社会イノベーション研究科 II 期

入学試験問題

受験番号

《 英語 》

【出題意図】

社会イノベーション研究科の学生として社会科学に関する英語文献を読むにあたり、最低限必要と思われる英文理解力を受験者が持っているかどうかを測る問題となっている。なお、本試験では英和辞書の使用を認めており、辞書を活用しながら文章を理解する能力もあわせて確認する。

【試験問題】

[1] 次の文章を読んで、下の問1～問5に答えなさい。なお、解答には、これら小問の番号である1～5をそれぞれ記入すること。出典：Voice of America Learning English, “Work from Home Limits Work Friendships.” Reported by Leanne Italie (AP) and adapted by Anna Matteo, 2023. より一部抜粋、改変。

(<https://learningenglish.voanews.com/a/work-from-home-limits-work-friendships/6963579.html>)

問1 下線部(1)を日本語に訳しなさい。

《解答例》データによれば、概して若い世代ほど、職場とのつながりが薄れていると感じている状況にあります。

問2 下線部(2)を日本語に訳しなさい。

《解答例》人と人が物理的に離れている状況では、信頼関係を築くことはより困難になります。

問3 下線部(3)の this が指す内容を、本文に基づき日本語で簡潔に説明しなさい。

《解答例》フルタイムのリモートワークにおいて、部下と直接対面する機会がないために、上司としての信頼を得ることが以前の職務よりも困難になっているという状況。

問4 下線部(4)を日本語に訳しなさい。

《解答例》そうした従業員は、より多く顧客と接し、より効率的に働き、より安全な職場環境を維持し、新たなアイデアを生み出します。

問5 下線部(5)を日本語に訳しなさい。

《解答例》単に共に働いているだけでなく、お互いのために働いているのです。

[2] 次の文章を読んで、下の問 1～問 6 に答えなさい。なお、解答には、これら小問の番号である 1～6 をそれぞれ記入すること。

出典：Tristan L. Botelho, Ranjay Gulati, and Olav Sorenson, “The Sociology of Entrepreneurship Revisited”, *Annual Review of Sociology*, 50, 2024. より一部抜粋、改変。
(<https://www.annualreviews.org/content/journals/10.1146/annurev-soc-030222-014049>)

問1 下線部(1)の *daunting* に最も近い意味の単語を選びなさい。

《正答》 (B)

問2 起業後の初期段階において起業家が事業資金を得る主な手段として本文で述べられているのは何か。日本語で簡潔に答えなさい。

《解答例》 起業家の友人や家族からの資金の提供。

問3 下線部(2)を日本語に訳しなさい。

《解答例》 投資家は複数のスタートアップに分散投資することでリスクを抑えられるが、それとは異なり従業員は雇い主が一人しかいない。

問4 本文が提示する「社会的つながりによって経営リソースを動員する三つのメカニズム」を日本語で簡潔に列挙しなさい。

《解答例》 情報提供（起業家の能力・信頼性に関する情報）／情緒的満足によるリスク補填（助けることによる友人・家族の満足）／認知バイアス（成功可能性を実際以上に高く見積もる偏り）

問5 ステータスの高い企業で働いていた経験があると、なぜ起業家はベンチャーキャピタルから資金調達をしやすいのか、本文に基づいて日本語で答えなさい。

《解答例》 ステータスは品質のシグナルとして機能し、ステータスの高い企業に所属していた起業家は有能と見なされるから。

問6 下線部(3)を日本語に訳しなさい。

《解答例》 ある意味では非合理的なのだが、こうしたバイアスは社会的な潤滑剤として働き、経営資源へのアクセスを容易にする。

